

夏秋小ギク品種「長崎 SRC1」および 秋小ギク品種「長崎 AYC1」の育成

池森恵子，竹邊丞市，峯 大樹¹⁾

キーワード：秋小ギク，育成，夏秋小ギク，長崎 AYC1，長崎 SRC1

Breeding of new spray type Chrysanthemum cultivars, ‘NAGASAKI SRC1’ and ‘NAGASAKI AYC1’

Keiko IKEMORI, Shoichi TAKEBE, Daiki MINE

目 次

1. 緒言
2. 育種目標および育成経過
 - 1) 長崎SRC1
 - 2) 長崎AYC1
3. 試験方法
 - 1) 長崎SRC1
 - 2) 長崎AYC1
4. 結果および考察
 - 1) 長崎SRC1
 - 2) 長崎AYC1
5. 特性の概要および栽培上の留意点
 - 1) 長崎SRC1
 - 2) 長崎AYC1
6. 摘要
7. 引用文献

Summary

¹⁾現長崎県農林部農産園芸課

1. 緒言

小ギクは、家庭用仏花として年間を通して堅調な需要のある品目である。また、露地栽培が可能で、他の花き品目と比べて労働時間が少なく、比較的所得率の高い品目であることから、本県においては遊休農地や離島、中山間地などへ積極的な作付け推進を図っている。全国の小ギクの作付面積は、年々微減するなか、本県では、平成 26 年産の作付面積は 39.5ha²⁾で、平成 21 年産の 19.1ha¹⁾と比較すると約 2 倍に増加している。一方、この作付面積の増加に対し、出荷量の増加は 1.4 倍の 8,780 千本にとどまっており、安定生産できていない現状がある。その大きな要因の一つに導入品種の問題がある。種苗会社の優良品種を導入すると、栽培許諾料が多大な負担となるため、栽培許諾料の不要な品種を導入する産地が多い。この場合、導入コストは抑えられるものの、電照による開花抑制の可否や到花日数といった開花特性が明確でないものが多いため、需要期をはじめとする計画生産が難しく、産地化も困難

となる。

このため、当センターでは本県の気候にあった開花特性を有し、花色や草姿等に優れるオリジナル小ギク品種の育成に取り組んだ。県独自のオリジナル品種の開発は低コストで品種導入が可能となるため産地拡大が図られるほか、生産者や農協、市場関係者の評価を取り入れながら選抜できることにより産地の差別化や有利販売につながることから、他県公設試験研究機関でも小ギク新品种の育成は行われており、これまでに沖縄県農業研究センター⁴⁾⁶⁾や茨城県農業総合センター⁵⁾など多数の報告がある。

本報では、当センター保有系統を親に用いた自然交配によって得られた実生個体を選抜し、生産力検定試験および現地適応性試験を行った結果、夏秋小ギク「長崎 SRC1」並びに秋小ギク「長崎 AYC1」を育成したので、育成過程とその特性について報告する。

2. 育種目標および育成経過

1) 長崎 SRC1

夏秋小ギクの育種目標を、『電照により花芽分化を抑制し、開花を調整することで7~9月開花作型に対応可能で、需要期に安定生産ができ、優れた草姿や花色を有する』品種とし、2007年度から夏秋小ギクの育種を開始した。

「長崎 SRC1」は2008年に長崎県農林技術開発センターにおいて、当センター保有の秋小ギク選抜系統と夏秋小ギク選抜系統を親として自然交配により得られた実生から育成した濃赤色の夏秋小ギク品種である。2009年に播種し、得られた実生個体を木柱平張施設圃場へ定植し、選抜を開始した。切り花品質調査を行った結果、花色や草姿に優れていたことから、系統番号「9-8-1」として選抜した。2011年および2012年に生産力検定試験を行い、2012年には8月開花作型および9月開花作型での電照による開花抑制試験と、県内3ヶ所で現地適応性試験を行った。同年に形質の安定性・均一性と電照による開花抑制が可能であることを確認し育成を完了した。

2013年には県内11ヶ所にて大規模試作を行い、より広範囲な地域での適応性と生産者評価を確認し

たうえで、2014年3月10日に品種登録出願し、2016年3月7日付けで「長崎 SRC1」として種苗法に基づき品種登録(第24888号)された。

2) 長崎 AYC1

秋小ギクの育種目標を、『切り花の先端から30cm以下に発生する無効側枝が少なく、出荷調製が容易で、優れた草姿や花色を有する』品種とし、2008年度から秋小ギクの育種を開始した。

「長崎 AYC1」は2011年に長崎県農林技術開発センターにおいて、当センター保有の秋小ギク系統「キ14」の自然交配により得られた実生から育成した濃黄色の秋小ギク品種である。2012年に播種し実生個体を得て、木柱平張施設圃場へ定植し、選抜を開始した。切り花品質調査を行った結果、濃黄の花色が良く、草姿に優れ、生産者評価も高かったことから系統番号「2118」として選抜した。2013年から2015年にかけて生産力検定試験を行い、2014年および2015年に県内2ヶ所で現地適応性試験を行った。2015年に形質の安定性・均一性を確認し育成を完了した。今後、品種登録出願予定である。

3. 試験方法

1) 長崎 SRC1

(1) 生産力検定試験および電照による開花抑制試験

2011年に当センターの木柱平張施設で8月開花作型および9月開花作型で生産力検定および開花抑制試験を行った。栽植方法は床幅70cmに条間40cm、株間10cmの2条植とした。8月開花作型は4月25日に定植した。摘芯を行ったのち、株あたり3本になるよう整枝した。定植直後から白熱球で22:00~3:00まで暗期中断処理を行い、6月9日に消灯した。

9月開花作型はビニールハウスで6月22日に定

植し、8月開花作型同様に暗期中断処理を行い、8月1日に消灯した。

2012年は自然開花作型と8月開花作型において、生産力検定および開花抑制試験を行った。自然開花作型は露地圃場で4月13日に定植した。8月開花作型は木柱平張施設で4月13日に定植し、定植直後から22:00~3:00まで暗期中断処理を行い、6月3日に消灯した。

各作型において、収穫日および切り花品質を調査した。対照品種として、「こずえ」を用いた。耕種概要を表1に示す。

表1 「長崎 SRC1」の生産力検定試験および開花抑制試験の耕種概要

開花作型	試験年次	栽培条件 ^{z)}	電照	管 理 (月/日)	
				定植	消灯
自然	2012	露地	無	4/13	—
8月	2011	木柱平張	有	4/25	6/9
	2012	木柱平張	有	4/13	6/3
9月	2011	ビニールハウス	有	6/22	8/1

z) 試験場所の標高：15m（農林技術開発センター）

(2) 現地適応性試験

2012年に県内3ヶ所において、自然開花、8月開花、および9月開花作型で現地適応性試験を実施した。栽植方法は床幅70cmに条間13.5cm、株

間13.5cmの中抜き4条植とし、摘芯を行ったのち、株あたり3本になるよう整枝した。収穫日および切り花品質を調査した。耕種概要を表2に示す。

表2 「長崎 SRC1」の現地適応性試験の耕種概要(2012年)

開花作型	電照	試験場所および栽培条件	管 理 (月/日)	
			定植	消灯
自然	無	佐世保市・露地 (標高250m)	4/9	—
8月	有	壱岐市・露地 (標高10m)	4/5	6/6
9月	有	佐世保市・ビニールハウス (標高285m)	5/28	7/21

(3) 大規模試作による特性調査

2013年に県内11ヶ所（7市1町）において、自然開花、8月開花、および9月開花作型におけ

る「長崎 SRC1」の大規模試作を行った。このうち8月開花作型で試作を行った5ヶ所の特性を調査した。5ヶ所の耕種概要は表3に示す。

表3 「長崎 SRC1」の大規模試作の耕種概要(2012年)

栽培者	試験場所および栽培条件	管理 (月/日)	
		定植	整枝
A	雲仙市・ビニールハウス	4/25	5/20
B	諫早市・露地	4/15	5/15
C	南島原市・露地	4/25	5/20
D	佐世保市・ビニールハウス	4/4	— z
E	壱岐市・平張施設	4/3	— z

z) 未調査

2) 長崎 AYC1

(1) 生産力検定試験

2013年から2015年にかけて当センターの木柱平張施設で自然開花作型での生産力検定試験を行った。栽植方法は床幅70cmに条間40cm、株間10cmの2条植とした。定植後は摘芯を行ったのち、株あたり3本になるよう整枝した。2013年は6月27日に定植し、7月10日に摘芯を行い、7月

22日に整枝を行った。

2014年は6月25日、2015年は6月23日に定植し、栽植方法は2013年と同様に行った。また、2015年は露地圃場においても生産力検定試験を行った。これらについて、開花日および切り花品質を調査した。対照品種には「きぼう」を用いた。耕種概要を表4に示す。

表4 「長崎 AYC1」の生産力検定試験の耕種概要

試験年次	栽培条件 ^{z)}	管理 (月/日)			
		挿し芽	定植	摘芯	整枝
2013	木柱平張	6/12	6/27	7/10	7/22
2014	木柱平張	6/4	6/25	7/2	7/24
2015	木柱平張	6/3	6/23	6/29	7/21
	露地	同上	同上	同上	同上

z) 試験場所の標高：15m (農林技術開発センター)

(2) 現地適応性試験

2014年に長崎市、2015年に佐世保市で現地適応性試験を行った。栽植方法は床幅80cmに条間12.5cm、株間12.5cmの中抜き4条植とし、摘芯

を行ったのち、株あたり3本になるよう整枝した。その後、開花日と切り花品質を調査した。耕種概要は表5に示す。

表5 「長崎 AYC1」の現地適応性試験の耕種概要

試験年次	試験場所および栽培条件	定植 (月/日)
2014	長崎市・露地 (標高250m)	6/23
2015	佐世保市・露地 (標高270m)	6/23

4. 結果および考察

1) 長崎 SRC1

(1) 生産力検定試験および電照による開花抑制試験

2012年の自然開花作型での生産力検定試験における「長崎 SRC1」の収穫日は7月14日であった。切り花長は121.4cm、節数は68.4節となり、電照により開花抑制処理を行った8月および9月開花作型よりもこれらの値が大きくなった。このことは、試験場所近くの電照施設の影響を受け、開花が抑制されていたものと考えられる（表6、図1）。

2011年に行った8月開花作型での開花抑制試験では、6月9日まで電照処理を行うと、収穫日は8月5日となり、到花日数は58日であった。2012年の同作型での収穫日は7月21日で、到花日数は49日と短くなった。この理由として、消灯日の翌

日である6月4日にはすでに発蕾を確認していることから、光量の不足など電照による開花抑制が不十分であったと考えられる。到花日数は短くなったものの、切り花長は109.6cmと長崎県切り花標準出荷規格の最上位規格80cmを超えたが、80cm調製重は48.5gと同規格50gをやや下回った。対照品種である「こずえ」と比べると、節数および枝数は多くなったが、切花長、80cm調製重および花蕾数では下回った。フラワーフォーメーションは1または2であった（表6、図1）。

2011年の9月開花作型では、8月1日に消灯すると収穫日は9月17日となり、到花日数は59日であった。切り花長は101.0cm、90cm調製重は52.9gであった。フラワーフォーメーションは1で、上位で花房がまとまり花束加工に適した草姿となった（表6、図1）。

表6 「長崎 SRC1」の開花特性

品種名	開花作型	試験年次(年)	栽培条件	消灯日(月/日)	収穫日(月/日)	到花日数(日)	切り花長(cm)	節数(節)	枝数(本)	花蕾数(個)	FF ^z	80cm調製重(g)	90cm調製重(g)
長崎 SRC1	自然	2012	露地	—	7/14	—	121.4	68.4	16.2	33.4	1または3	—	45.1
	8月	2011	木柱平張	6/9	8/5	58	110.7	51.0	13.0	25.0	—	—	70.3
		2012	木柱平張	6/3	7/21	49	109.6	50.0	15.0	33.4	1または2	48.5	—
	9月	2011	ビニールハウス	8/1	9/17	59	101.0	56.1	9.9	12.4	1	—	52.9
こずえ	自然	2012	露地	—	6/17	—	80.8	42.6	6.0	23.8	1~4	—	43.4
	8月	2012	木柱平張	—	—	—	114.7	36.7	6.3	63.0	4	57.3	—
	9月	2011	木柱平張	8/1	9/17	59	118.9	62.2	12.8	27.2	1	—	53.4

z) FF：フラワーフォーメーション（図1参照）

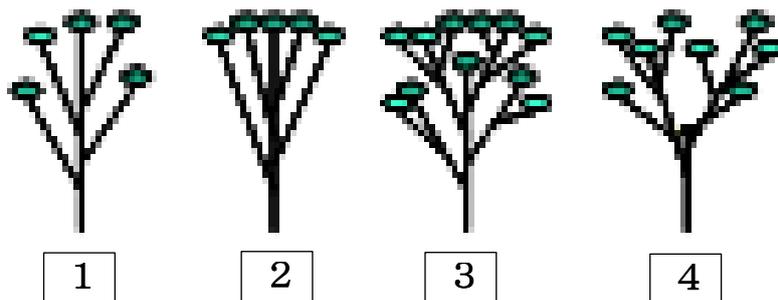


図 1. フラワーフォーメーション

54.4g となり、長崎県切り花標準出荷規格の最上位規格を越えた(表 7)。

(2) 現地適応性試験

自然開花作型での佐世保市における収穫日は 7 月 5 日で、切り花長は 66.7cm と短くなった(表 7)。だが、生産者からはフラワーフォーメーションが 1 または 2 で上位花房のまとまりが良く、花色もきれいで、切り花重は 50g を超えボリュームに優れていたことから生産者の評価は高かった。また、自然開花作型における切り花長の確保に向け定植を早める必要があるとの意見であった。

8 月開花作型での壱岐市における収穫日は、6 月 6 日の消灯で 8 月 3 日となり、到花日数は 59 日であった。切り花長は 108.0cm、80cm 調製重は

生産者からは濃い赤の花色が良く、高温下でも色持ちが良いとの評価であった。

9 月開花作型での佐世保市における栽培条件はビニールハウスであった。7 月 21 日の消灯で収穫日は 9 月 14 日であり、到花日数は 56 日となった。切り花長は 96.3cm、80cm 調製重は 64.1g、フラワーフォーメーションは 1 となった(表 7)。生産者からは花色およびボリューム、フラワーフォーメーションが良く、上位花房のまとまりが良いとの評価であった。

開花作型	試験場所および栽培条件		定植	消灯日	収穫	到花	切り	切り	節数	FF ^z	80cm	評価 ^x
			日	日	日	日数	花長	花重			調製重 ^y	
			(月/日)	(月/日)	(月/日)	(日)	(cm)	(g)	(節)		(g)	
自然	佐世保市	露地	4/9	—	7/5	—	66.7	50.7	32.0	1 または 2	—	○
8 月	壱岐市	露地	4/5	6/6	8/3	59	108.0	72.8	55.6	1	54.4	○
9 月	佐世保市	ビニールハウス	5/28	7/21	9/14	56	96.3	72.9	53.7	1	64.1	○

表 7 「長崎 SRC1」 現地適応性試験における開花特性および評価 (2012 年)

z) FF : フラワーフォーメーション (図 1 参照)

y) 80cm 調製重は切り花を長さ 80cm に調製し無効側枝と下葉 (20cm) を除去して測定

x) 評価 : ○有望

(3) 大規模試作による特性調査

2013 年の大規模試作地における消灯日、収穫時期および生産者評価について表 8 に示す。6 月 5 日から 7 日までに消灯した試作地では 8 月上旬までに収穫できたが、6 月 10 日から 11 日までに消灯した試作地では収穫時期が 8 月中下旬となった(表 8)。市場の取扱量が特異的に増加する 8 月盆の特需期は例年 8 月 1 日から 10 日頃までであり、このスポット的な需要期に出荷できるか否かで販売単価が大きく異なる。試作地での開花時期についての評価は、他の品種に比べ開花までに日数がかかる、あるいは、開花が必要期に間に合わなかったとの評価が多くあり、消灯を早める必要があるとの意見であった。生産力検定試験および現地適応性試験結果における到花日数は 60 日程度であることから(表 6, 表 7)、8 月の需要期出荷に向けて作付する場合は 6 月初旬までに消灯するの

が望ましいと考えられる。

また、草姿については、特に畝外側など十分光量が確保できている株で不要な側枝の発生が多くみられたとの評価が多くあった。生育が旺盛になる圃場においては樹勢を抑えるために施肥量を控えるなどの対策が必要と思われる。花や茎葉については、花色が良い、茎が太く重量も十分であるとの評価が多く、葉が小葉で形状が良いとの評価であった(表 8)。

「長崎 SRC1」は電照による開花抑制が可能であることから、8 月から 9 月の需要期に向けた作型に対応できる。1 つの品種で複数の作型に対応できるため、親株管理作業の集約につながり低コスト化が期待できる。今後は、電照による開花抑制可能な白および黄色のオリジナル優良品種育成をすすめていく。

他県では徐々に電照設備の導入が進んでいるが、

本県での導入はまだ一部産地にとどまっており、単価の安定したスポット的な最需要期のニーズに十分対応できていない現状がある。優良な電照品

種の育成・普及により、電照栽培が普及し、定時・定量・定質の出荷体制の確立³⁾と優良産地の育成が期待できる。

栽培者	試験場所および栽培条件	消灯日 (月/日)	収穫時期	評価 ^{z)}
A	雲仙市・ビニールハウス	6/5	8月上中	開花時期 : △ ハウス内の高温で開花に時間がかかった。下温対策が必要。 草姿 : △ 通路側に不要な側枝が発生した。側枝の除去が必要。茎は太く重量は十分。 花 : ○ 花色が良い。
B	諫早市・露地	6/7	8月上	開花時期 : △ 他の品種と同時に消灯すると開花が遅れる。 草姿 : ○ 市場から評価は良い。 花 : △ 花のボリュームが足りない。
C	南島原市・露地	6/11	8月中	開花時期 : △ 消灯を早める必要がある。到花日数は安定している。 草姿 : △ 通路側に不要な側枝が発生した。側枝の除去が必要。 花 : ○ 花色が良い。
D	佐世保市・ビニールハウス	6/10	8月中下	開花時期 : △ 1/3程しか盆最需要期出荷に間に合わなかった。消灯を早める必要がある。 草姿 : ○ 不要な側枝の発生はなかった。葉の形状が良く、小葉で良い。重量は十分。 花 : ○ 花色は問題ない。
E	壱岐市・平張施設	6/10	8月下	開花時期 : △ 平張施設内は高温になるため、特に開花が遅れた。消灯時期を早める必要がある。 草姿 : △ 不要な側枝の発生が多かった。茎は太く重量は十分である。立葉で良い。 花 : ○ 花色は良い。色持ちは良い。

表8 「長崎 SRC1」大規模試作地における8月開花作型での消灯日と収穫時期、および評価
z) 評価: ○良い △栽培方法に改善が必要

2) 長崎 AYC1

(1) 生産力検定試験

「長崎 AYC1」の自然日長下における開花時期は10月中旬から下旬で、気象の年次変動による開花日の変動幅は10日程度であった。2013年～2015年までの生産力検定試験において、切り花長は91.1cm以上で、80cm調製重は52.4g以上となり、

県の標準出荷規格の最上位規格である切り花長80cmおよび80cm調製重50gを越えた。また、「きぼう」と比較すると無効側枝数は0～0.5本ときわめて少なく、また、花径および茎径が大きくボリュームに優れた。フラワーオーメーションは2または3であった(表9, 図1)。

表9 「長崎 AYC1」の開花特性

品種名	試験年次(年)	栽培条件	開花日 ^z (月日)	切り花長(cm)	切り花重(g)	節数(節)	有効側枝数 ^y (本)	無効側枝数 ^x (本)	花蕾数 ^w (個)	花径 ^v (mm)	茎径(mm)	FF ^u	80cm調製重 ^t (g)
長崎 AYC1	2013	平張	10/28	97.6	115.9	—	11.0	0.5	38.3	44.8	7.3	3	84.0
	2014	平張	10/22	113.5	99.8	53.1	6.2	0.0	27.7	46.1	6.0	3	60.8
	2015	平張	10/18	106.3	83.5	54.3	9.0	0.0	20.0	43.3	5.6	3	55.0
	2015	露地	10/19	91.1	70.5	53.5	10.0	0.0	19.2	42.0	5.0	2~3	52.4
きぼう	2013	平張	10/28	105.3	156.3	—	9.7	10.0	36.6	36.2	5.6	3	70.3
	2014	平張	10/27	112.1	130.0	50.1	5.0	5.0	27.0	37.0	4.8	3~4	49.8
	2015	平張	11/5	112.1	120.2	59.2	6.5	2.8	29.8	37.0	4.7	2~3	57.7
	2015	露地	11/5	110.3	167.0	55.8	5.7	5.3	21.2	38.3	4.2	3~4	49.6

- z) 開花日は頂花が開花した日
- y) 有効側枝は頂花から下 30cm のところまでに発生した花蕾のついた側枝
- x) 無効側枝は有効側枝の下に発生した花蕾の付いた側枝
- w) 花蕾数は開花輪数と直径 5mm 以上の蕾数
- v) 花径は開花した頂花で測定
- u) FF: フラワーフォーメーション (図 1 参照)
- t) 80cm 調製重は切り花を長さ 80cm に調製し無効側枝と下葉 (20cm) を除去して測定

(2) 現地適応性試験

2014 年の長崎市現地栽培圃での開花日は 10 月 14 日であった。切り花長は 103cm で、80cm 調製重は 52g となった。生産者からは、無効側枝の発生がなく、出荷調製に手間がかからないと高い評価であった (表 10)。

2015 年の佐世保市現地栽培圃での開花日は 10 月 19 日であった。切り花長は 90cm を超えたが、80cm 調製重は 44g とやや軽くなった (表 10)。生産者からは無効側枝の発生が少ないうえ、黄色が濃い花色であり、大変良いとの高い評価であった。本県では夏秋小ギクの作付けが中心であり、秋小ギクや寒小ギクを作付けしている生産者はごく少数である。このようななか、7 月~12 月まで長期出荷できる産地を育成する目的で秋小ギクや寒小

ギクの品種育成を開始した。今回の「長崎 AYC1」の育成により、長崎市、佐世保市、諫早市、壱岐市のこれまで秋小ギクを栽培していない生産者から作付希望が挙がっている。平成 28 年度から各地で試作を行い、翌年には本格栽培を開始する予定であり、秋小ギクの品種育成によって県内の作型が徐々に広がりを見せている。

また、「長崎 AYC1」は秋小ギクであることから、電照による開花抑制により開花時期の調整が可能と考えられる。小ギクの需要期である年末出荷作型などに対応できれば、品種をさらに活用できる。さらに現在、「長崎 AYC1」以外にも有望な系統が秋小ギクでは 2 系統、寒小ギクでは 4 系統得られており、今後は関係機関とともにこれら系統の品種登録を検討していきたい。

表 10 「長崎 AYC1」現地適応性試験における開花特性^zおよび評価

試験年次(年)	試験場所および条件	開花日(月/日)	切り花長(cm)	切り花重(g)	節数(節)	有効側枝数(本)	無効側枝数(本)	花蕾数(個)	花径(mm)	茎径(mm)	FF	80cm調製重(g)	評価 ^x
2014	長崎市・露地	10/14	103	63	53	6.5	0.0	24	38	5.9	3	52	○
2015	佐世保市・露地	10/19	96	66	55	8.0	0.3	16	44	5.2	3	44	○

- z) 調査方法は表 7 と同じ
- x) 評価: ○有望

5. 特性の概要および栽培上の留意点

1) 長崎 SRC1

花色は濃赤（RHS カラーチャート RED-PURPLE GROUP 59-A）で、草丈は高、花弁は半八重で、花径は中である。2016年の開花時調査では、4月上旬に定植すると自然日長下での開花期は6月下旬で、電照により8月から9月まで開花抑制が可能な夏秋小ギクである（写真1、表11）。フラワーフォーメーション

ンは1で、上位花房のまとまりが良く、花束加工に適した草姿である（表11、図1）。

8月開花作型以降は樹勢が強まり、無効側枝の発生が多くなるため、施肥量を控える。また、高温下では花芽形成が遅れる傾向があるため、8月開花作型においては6月初旬までに消灯するのが望ましい（表8）。

表11 「長崎 SRC1」と「こずえ（対照品種）」の特性表（2016年）

形質	長崎 SRC1		こずえ（対照）		ヤード
	特性値	測定値	特性値	測定値	
自然開花期	6月下旬	6/28	7月上旬	7/9	
舌状花の主な色	濃赤	RED-PURPLE GROUP 59-A ^z	鮮赤ピンク	RED-PURPLE GROUP 64-A ^z	
開花時切り花長	高	70.8cm	高	88.9cm	
頭花の型	半八重		半八重		
花径	中	39.0mm	中	30.1mm	
FF ^y	1		3または4		
電照による開花抑制	可 (8~9月開花)		可 (8~9月開花)		

z) RHS カラーチャート

y) FF：フラワーフォーメーション（図1参照）



写真1 「長崎 SRC1」

2) 長崎 AYC1

花色は濃い黄 (RHS カラーチャート YELLOW GROUP 9-A) で、草丈は高、花弁は半八重で、花径は中である。6月下旬に定植すると、自然日長下での開花期は10月中旬頃の秋小ギクである(写真2, 表12)。開花揃いが良く、葉は立性で、先端から30cm以下に発生する側枝数がきわめて少ない

ため、出荷調整がしやすい草姿となっている(表12)。

茎が太く、生育が旺盛であるため、施肥量が不足していると下葉の黄化がみられる。盛夏を経過する作型においては基肥を増やすか追肥するなどして十分な施肥量を施す。

表12 「長崎 AYC1」と「きぼう (対照品種)」の特性表^{z)} (2015年)

形質	長崎 AYC1		きぼう (対照)	
	特性値	測定値	特性値	測定値
自然開花期	10月中旬	10/19	11月上旬	11/5
舌状花の主な色	濃黄	YELLOW GROUP 9-A ^{y)}	黄	YELLOW GROUP 7-A ^{y)}
開花時草丈	高	106.3	高	112.1
頭花の型	半八重		半八重	
花径	中	43.3	中	37.0
FF ^{x)}	3		2または3	
葉柄の向き	立性		立性	
無効側枝数 ^{w)}	きわめて少ない	0.0本/株	やや少ない	3.5本/株

z) 木柱平張施設での開花特性

y) RHS カラーチャート

x) FF: フラワーフォーメーション (図1参照)

w) 切り花の先端から30cm以下に発生した花蕾のついた側枝



写真2 「長崎 AYC1」

6. 摘要

長崎県農林技術開発センターで夏秋小ギク「長崎 SRC1」と秋小ギク「長崎 AYC1」を育成した。

「長崎 SRC1」の花色は濃赤，草丈は高，花弁は半八重で，花径は中，自然開花時期は7月上旬であり，電照による開花抑制が可能であり，8～9月の需要期に向けた作型に対応できる。

「長崎 AYC1」の花色は濃黄，草丈は高，花弁は半八重で，花径は中，10月開花の秋小ギクである。開花揃いが良く，葉は立性・小葉で，先端から30cm以下に着生する側枝の発生が少ないため，出荷調製しやすい。

7. 引用文献

- 1) 農林水産統計 平成 21 年産花きの作付(収穫)面積および出荷量
- 2) 農林水産統計 平成 26 年産花きの作付(収穫)面積および出荷量
- 3) 農産園芸課：活力ある「ながさきの花」100億達成プラン p.27 (2016)
- 4) 関塚史朗・照屋寛由・玉木 力・儀間直哉：秋小ギク「沖の黄寿」，「沖の白寿」の育成経過とその特性，沖縄県農業研究センター研究報告，1:37-45 (2008)
- 5) 鈴木一典・霞 正一：小ギク新品種「常陸シリーズ」9 品種の育成，茨城農総生工研研報，12:13-25(2011)
- 6) 照屋寛由・関塚史朗：小ギクの新品種「沖のひかり」，「沖の乙女」の育成，九州農業研究，67：187(2005)

Summary

We bred two new small-flowered chrysanthemum cultivars, 'NAGASAKI SRC1' and 'NAGASAKI AYC1'. Their characteristics are as follows.

1) 'NAGASAKI SRC1': Flower color is deep red, stem length is long, petal is semi-doubled flowered, diameter of top flower is medium, the time of bloom is Early-July under natural day length. Restraint of the flowering is possible under light culture.

2) 'NAGASAKI AYC1': Flower color is yellow, stem length is long, petal is semi-doubled flower, diameter of flower is medium and the time of bloom is October. Leaf is upright and leaflet. Since blooming is well concentrated and lateral branch, which occur lower than 30 cm from top is few, shipping adjustment is easy.

